

令和3年度 事業報告

いのちを守る赤十字



125 年の歴史に幕 最後の卒業式（長野赤十字看護専門学校）

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

01 令和3年度 TOPICS

03 災害救護

09 国際活動

11 赤十字奉仕団

18 青少年赤十字

21 救急法などの講習

27 日赤活動資金の募集

40 医療事業

43 看護師養成

45 血液事業

47 社会福祉事業

49 評議員会

50 監査報告

52 決算報告

60 資料編



赤十字の誕生

スイス人の実業家アンリー・デュナンは 1859 年、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで 4 万人の死傷者に遭遇します。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救わなければならない」との信念のもと、村人たちと協力して救護活動にあたりました。そして、この体験を『ソルフェリーノの思い出』という本にまとめ、以下の必要性を訴えました。

- ①戦場の負傷者と病人は敵味方の区別なく救護すること
- ②そのための救護団体を平時から各国に組織すること
- ③この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

この思想がヨーロッパ各国に反響を呼び、1864 年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。



長野県支部の誕生

明治 10(1877) 年、博愛社として設立された日本赤十字社は、各県に「支部」の設置に取り組みました。長野県では明治 22(1889) 年、県庁内に支部を設置後、明治 32(1899) 年には、現在の地に事務所を建設し、赤十字思想の普及と事業拡大の拠点としました。



令和3年度 TOPICS

日頃、日本赤十字社長野県支部の活動に対しまして、関係者をはじめ、多くの県民の皆さまから多大なるご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、令和3年度は、依然として新型コロナウイルス感染症が日々の生活や社会経済活動に影響を及ぼし、さらには、紛争や難民等による深刻な人道危機など世界的な規模で問題が複雑化した1年でありました。そのような中、長野県支部では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たすため、人道支援事業を推進してまいりました。

長野赤十字看護専門学校においては、明治30年以来、赤十字の精神「人道・博愛」を実践し、看護に加え、国内外の災害救護活動や保健活動等、幅広い分野で活躍できる看護師を養成してまいりましたが、令和4年3月31日をもって閉校いたしました。

また、県内の医療施設においては、感染防止の徹底を図りながら、新型コロナウイルス感染症患者の診療や重症者の受け入れはもちろんのこと、行政や関係機関と連携してワクチン接種の事業に取り組むとともに、地域に安全・安心な医療が提供できるよう、努めてまいりました。

県民の皆さまから、より一層信頼される赤十字を目指した活動をここに報告いたします。

長野赤十字看護専門学校 125年の歴史に幕



113回生 25人が最後の卒業生

令和3年度をもって閉校する長野赤十字看護専門学校では、長い歴史の最後となる卒業式を举行了。卒業証書を授与された113回生は、入学以来、コロナ禍の影響により、授業や実習をオンラインに変更するなど様々な制限を受ける困難な学生生活となりましたが、長野赤十字看護専門学校の伝統と誇りを胸に、歩み続けていきます。

また、卒業式の終了後には、長野赤十字看護専門学校同窓会から寄贈された校歌が刻まれている閉校記念碑の除幕式も行いました。

長野赤十字看護専門学校 閉校記念式典



これまでに 3,440 名の卒業生を輩出

コロナ禍のため規模を縮小した閉校記念式典を3月12日に挙行しました。1897年に看護師養成を開始し、これまでにナイチンゲール記章の受章者1名を含む3,440名の卒業生を輩出してきました。式典では、長年にわたり看護実習にご尽力いただいた学外講師や関係団体に感謝状を贈呈したほか、学校の歩みを紹介するスライドを上映しました。

「救う」ことを続ける



感染症まん延下、最前線で立ち向かう

赤十字病院では、引き続き、感染防止対策の徹底を図るため、より一層感染管理体制を強化するとともに、防護具の適切な使用やゾーニング（フロアを条件別に区域分けすること）等、基本的な予防策を順守しながら、新型コロナウイルスという見えない脅威と不安に対応していました。

また、来院される方々にも、入館時の発熱チェックや不織布マスクの着用をお願いとともに、お見舞いをオンライン面会に代えるなど、感染リスクの低減にご協力いただきながら、安全・安心の医療の提供に努めていました。

1 災害救護



組織力を結集し

災害に備える

(長野県総合防災訓練にて救護活動を行う下伊那赤十字病院救護班)

災害救護活動は、日本赤十字社法及び日本赤十字社定款に規定されている基本的業務です。また、日本赤十字社は災害対策基本法によって指定公共機関として位置付けられており、重要な役割を担っています。

長野県支部では、県内赤十字病院に「医療救護班」16班を常備するほか、被災地における医療ニーズの把握や救護活動にかかる他機関等との調整を担う「日赤災害医療コーディネーター及び同コーディネートスタッフ」に赤十字病院及び支部事務局職員計24人を任命し、あらゆる災害に適切に対応できるよう救護体制を整えています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、救護班要員が集合して、訓練・研修を実施することが困難であったため、Web等を積極的に活用しながら、知識・技術の習熟を図りました。

また、今後起こりうる大規模災害に備え、救援物資の備蓄を増やすとともに、株式会社綿半ホームエイド様のご協力のもと、同社の店舗において防災減災イベントを実施するなど、県民に対して防災・減災意識の啓発・普及にも努めました。

(1) 災害時緊急支援体制の強化

ア 医療救護班

災害や大事故が発生した際、直ちに被災地や事故現場へ医師・看護師等を派遣するため、県内全ての各赤十字病院に医療救護班を常備しています。この医療救護班は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準として編成しています。

イ 日赤災害医療コーディネートチーム

被災地における医療ニーズの把握や被災状況などの情報収集、他の関係機関との連絡調整を行うため、日赤災害医療コーディネートチームを配置しています。

このチームは、災害医療コーディネーター(医師)1人、コーディネートスタッフ(看護師、事務職員等)3~4人で編成しており、令和3年度は、コーディネートスタッフを1人増員し、コーディネートチーム体制を強化しました。

ウ 血液供給要員

迅速な血液製剤の輸送のため、県内赤十字血液センターの各所に血液供給要員を配置しています。

エ 防災ボランティア

被災者に対する応急救護・復旧等の活動を支援する防災ボランティアを組織しています。

(2) 各種訓練の実施

ア 支部災害対策本部運営訓練

8月1日、長野県支部において、「長野県支部災害対策本部運営訓練」を実施しました。この訓練は、「日本赤十字社支部災害対策本部等標準体制要綱」及び「日赤災害医療コーディネートチーム活動要綱」に示された支部災害対策本部の組織体制や受援体制、コーディネートチームとの連携並びに同チームの位置付けや役割の明確化を図るため、設置から運営までを確認するものです。今年度は、支部職員、日赤災害医療コーディネーター及びコーディネートスタッフ19人が参加し、災害対策本部の設置にかかる手順やレイアウト、組織体制の確認、次々と付与される条件や状況への対応等を訓練しました。



本部要員による情報収集・記録



被災地派遣計画

イ 支部合同災害救護訓練

12月11日、「長野県支部合同災害救護訓練」を初めてオンライン形式により実施しました。この訓練では、長野盆地西縁断層帯を震源とする地震が発生し、長野市で震度6強から7を観測、各地で多くの人的・物的被害が発生しているとの想定のもと、医療救護班、血液供給要員など参加者69人が、市内に開設された複数の避難所における被災状況、

令和3年度 事業報告 | 災害救護

要支援者に関するアセスメントや巡回診療、災害時の血液緊急搬送に対応する災害時血液緊急搬送等の訓練を行いました。



支部災害対策本部到着報告



避難所アセスメント・巡回診療訓練

ウ その他の救護訓練

訓練名	実施日	開催形式・開催地	参加人員（人）
第3ブロック支部 合同災害救護訓練	令和3年 10月17日	Web形式	6
長野県総合防災訓練	11月14日	駒ヶ根市	6

(3) 各種研修の実施

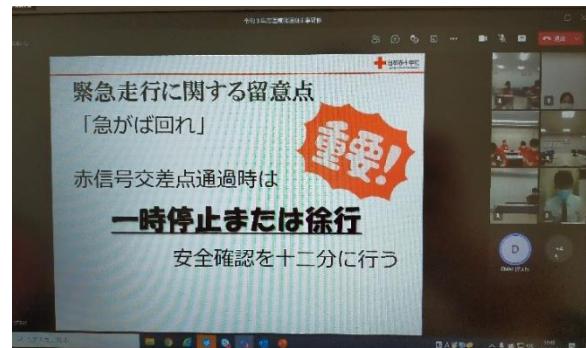
ア 医療救護班主事研修

医療救護班において庶務的役割を担う主事を対象に、災害時における医療救護班の役割や活動内容の理解、無線や衛星携帯電話等の情報ツール及び救護資機材に関する知識・技術の向上を図るために実施しました。

実施日	開催形式	参加人員（人）
令和3年6月4日	Web形式	19



オンラインによる講義



講義「緊急通行車両の取扱い」

令和3年度 事業報告 | 災害救護

イ こころのケア研修

災害時に被災者や救援者が受けるストレスを緩和するため、心理社会的支援を行う“こころのケア”は、赤十字の災害救護において重要な活動として位置づけられています。

この研修は、医療救護班要員等を対象に実施し、こころのケアに関する知識・技術の習得に努め、災害時におけるこころのケア活動の一層の充実と強化を図っています。

地域	実施日	会場	参加人員（人）
中南信	令和3年12月19日	諏訪赤十字病院	28
東北信	22日	長野県支部	18

ウ 救護員としての赤十字看護師研修

災害時に救護員の立場と役割を理解し、的確に判断・行動ができる赤十字の救護看護師を養成するため、県内赤十字病院の看護師を対象に「救護員としての赤十字看護師研修」を実施し、災害救護に関する最新の知識・技術の習得を図り、質の高い救護看護師の育成に努めました。

地 域	実施日	会 場	修了者数(人)
中南信	令和3年6月22日、 29日～30日	諏訪赤十字病院 (一部Web形式)	31
東北信	10月5日～7日	長野県支部	25



救護所運営のグループワーク



トリアージの演習

(4) 救護資機材等の整備

今後起こり得る大規模災害に備えて、災害救護用資機材と被災者の支援、県民の安心・安全に役立てるための救援物資を整備しました。

令和3年度 事業報告 | 災害救護

ア 令和3年度に整備した主な救護資機材

品名	数量	配備先
災害業務用自動車	2	小諸市地区、千曲市地区
モバイルパッド	3	飯山赤十字病院、下伊那赤十字病院 川西赤十字病院
モバイルパソコン	2	長野県支部
災害業務用無線局	3	長野県支部 長野県赤十字血液センター
救護員用カバン	130	長野赤十字病院、諏訪赤十字病院 安曇野赤十字病院、飯山赤十字病院
エアーストレッチャー	6	下伊那赤十字病院、川西赤十字病院

イ 令和3年度に整備した救援物資

品 名	数 量 (枚)
毛布	950



緊急セット

(携帯ラジオ、懐中電灯、歯ブラシ、軍手など)



安眠ヤツト

(マットレス アイスク 耳栓 空氣枕など)



毛布

(5) 「防災・減災」意識の啓発・普及

広く県民に対し、「防災・減災」意識の啓発・普及を図ることを目的に、株式会社 綿半ホームエイド様と連携し、中野市の店舗において、防災・減災イベントを実施しました。

イベントでは、防災・減災に役立つ物品の紹介、救急法などの講習体験や日赤災害車両の展示などを行いました。



(6) 各種イベント・スポーツ大会等における臨時救護活動の実施

県内各地の体育大会等の行事に、医師・看護師等を派遣し、救護活動を実施しました。

派遣年度	派遣延日数 (日)	派遣救護員 (人)			
		医 師	看護師等	主事等	合 計
令和3年度	38	1	37	0	38
前 年 度	49	0	50	0	50

(7) 義援金の受付

国内で発生した災害の被災者に対し、生活を支えるための義援金を受け付けました。

寄託された義援金の全額は、被災地の義援金配分委員会を通じ、被災者にお届けします。

名 称	災害発生年月	件数 (件)	金額 (円)
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	平成30年 7月	76	148, 258
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	令和 2 年 7 月	156	1, 979, 959
令和 3 年 2 月福島県沖地震災害義援金	令和 3 年 3 月	27	505, 707
令和 3 年 島根県松江市大規模火災義援金	4月	16	284, 378
令和 3 年 7 月豪雨災害義援金	7月	125	2, 912, 589
令和 3 年 台風第 9 号等大雨災害義援金	8月	51	249, 989
令和 3 年 8 月大雨災害義援金	8月	210	7, 334, 184
令和 3 年 長野県茅野市土石流災害義援金	9月	162	38, 315, 046
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	令和 4 年 3 月	1	50, 000
合 計		824	51, 780, 110

(8) 見舞金品の配分

県内で発生した豪雨、地震、火事などの被災者に対し、「長野県支部災害被災者見舞規程」に基づいて、見舞金及び見舞品を配分しました。

年 度	見舞金 (円)	毛布 (枚)
令和3年度	170, 000	54
前 年 度	300, 000	120

2 國際活動



世界の災害・紛争への対応



(食料や衛生物資等を配布する赤十字ボランティア)

日本赤十字社は、世界 192 の国や地域に広がる国際赤十字の一員として、世界各地で発生する紛争・災害で苦しむ人々に対する緊急救援や長期的な開発協力に取り組んでいます。また、看護師等の国際救援・開発協力要員の養成を行うとともに、現地へ派遣しています。

(1) 国際救援

ア 海外救援金の受付

区分	件数(件)	金額(円)
中東人道危機救援金	10	20,184
バングラデシュ南部避難民救援金	46	59,210
2021年ハイチ地震救援金	16	160,293
アフガニスタン人道危機救援金	29	161,115
トンガ大洋州噴火津波救援金	59	1,010,863
ウクライナ人道危機救援金	576	20,332,083
地域無指定の救援金	4	19,626
NHK 海外たすけあい	111	7,238,013
合 計	851	29,001,387

(2) 開発協力

ア レバノン シリア難民等の水衛生管理支援事業

2011年に勃発したシリア紛争から11年、隣国のレバノンでは、現在でも90万人以上の難民が劣悪な環境での避難生活を余儀なくされています。難民に対して感染症リスクの軽減を図るため、水・衛生に関する啓発活動を行うとともに、水・衛生用品の配布を行うほか、ホストコミュニティや学校における水・衛生設備の設置などを支援しました。



シリア難民への衛生物資配布



世帯ごとに設置した給水タンクとトイレ設備

イ アジア・大洋州の給水・衛生災害対応キット整備事業

近年、洪水やサイクロンなどの自然災害が発生しているアジア・大洋州地域において、災害時の給水・衛生活動のニーズが高まっています。災害への緊急即応体制整備の一環として、給水・衛生災害対応キットの整備を進めるとともに、現地の赤十字社スタッフやボランティアなど資機材を活用する人員の育成を支援しました。

ウ 東アフリカ3カ国（ブルンジ、タンザニア、スーダン）の地域保健強化事業

東アフリカは、気候変動を原因とする洪水や干ばつ等の自然災害、内紛や政情不安による難民の発生、エボラ出血熱をはじめとする感染症など様々な問題を抱える地域です。ラジオ放送やコミュニティ訪問を通じて、水・衛生、栄養、防災、感染症予防などの啓蒙活動を実施し、3カ国における地域の保健強化を支援しました。



被災者へ水を配布するバングラデシュ赤新月社



コミュニティ訪問を通じた啓蒙活動

3 赤十字奉仕団



人に寄り添い
支えあう



(地域において防災教育を展開するための奉仕団幹部の勉強会)

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成された組織です。

県内 92 の赤十字奉仕団では、赤十字思想の普及や活動資金の募集、災害救護、救急法・水上安全法・健康生活支援講習等の普及、献血推進、社会福祉活動など、地域のニーズや事情に応じた幅広い活動を展開しています。

また、奉仕団の活動に必要な知識や技術の習得を目的とする研修会等を効果的に開催するため“地域赤十字奉仕団研修推進委員”の育成に努めるほか、地域社会における防災・減災意識の啓発を図る体験型の防災啓発プログラムも積極的に実施しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、奉仕団活動も大きな影響を受けましたが、奉仕団の皆さんには、感染防止対策を講じ、防災教育のための勉強会をはじめ、救急法の受講、NHK 海外たすけあいの街頭募金活動など、各奉仕団において、創意工夫しながら活動しました。

また、地域赤十字奉仕団研修推進委員が講師として県内各地で開催した防災啓発プログラムの講演や体験型研修は、奉仕団員や幅広い年齢層の地域住民、学校の教職員や児童が受講しました。

令和3年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

(1) 地域赤十字奉仕団の活動

「赤十字奉仕団の活動を通じて地域社会に貢献したい」という想いを持った人々によって、市町村（地区・分区）ごとに組織されている奉仕団では、地区分区と連携し、地域において、防災意識を高めるための防災研修会の開催や防災訓練の参加、公共施設の清掃や社会福祉施設への労力奉仕、赤十字活動資金の募集など幅広い奉仕活動を実施しています。

また、事故や病気の予防に必要な知識と技術を習得するため、救急法講習や健康生活支援講習を積極的に受講しているほか、近年、頻発している災害への備えとして、“防災啓発プログラム”も受講しています。

本社が主催する中央委員会（47都道府県の委員長会議）及び近県8県からなる第3ブロック奉仕団委員長会議については、新型コロナウイルス感染症の影響により、Web形式で開催されました。

会議では、コロナ禍における奉仕団活動の課題について意見が交わされたほか、創意工夫して取り組んだ奉仕団活動について、様々な事例が紹介されました。



第3ブロック奉仕団委員長会議（Web）

赤十字奉仕団長野県支部委員会は、新型コロナウイルス感染症のワクチンが行き届いていない状況の中、県内全域から参集する委員の感染リスクを避けることを最優先に考え、同委員会の常任委員の改選については、文書審議とし、原案どおり承認されました。

また、地域赤十字奉仕団の幹部研修会については、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、短時間且つ参加人数を抑えながら、県内6会場で開催しました。

地域赤十字奉仕団研修推進委員から「わたしにとっての赤十字」を発表いただいたほか、未就学児向け防災啓発プログラムを取り入れた奉仕団活動の展開方法を学びました。



幹部研修会（飯田市）



新型コロナウイルス感染症の感染防止を考慮し、街頭での広報活動はできませんでしたが、安全な炊き出しのために徹底した衛生管理を行っている長野県支部の取り組みが、本社発行の「赤十字ボランティア情報誌 RCV」で紹介されました。

(2) 青年赤十字奉仕団の活動

18歳からおおむね30歳までの学生や社会人で組織されている青年赤十字奉仕団では、防災啓発活動や献血推進活動のほか、SNSを利用して同世代に向けた赤十字思想の普及活動に取り組んでいます。また、コロナ禍であっても、地域ごとに少人数で活動を進めているほか、コロナ収束後の活動に向けてオンラインセミナーに参加するなど、「今、自分たちができるここと」を模索しながら、積極的な活動を行っています。



小児病棟の入院患者に、手作りのクリスマスカードをプレゼント



長野市灯明まつりに灯り絵を出展し、赤十字活動の広報を行った

(3) 特殊赤十字奉仕団の活動

救急法指導員、水上安全法指導員、柔道整復師などの有資格者等で組織されている特殊赤十字奉仕団では、災害時における救護活動の支援や平時の防災訓練への参加、救急法、水上安全法の企画・運営・指導、長野県赤十字資料館や龍岡城五稜郭での案内、赤十字思想普及のための紙芝居の制作、録音図書の作製など、各団で専門技術を活かした様々な活動に取り組んでいます。



音訳録音ボランティア養成講座（音訳奉仕団）

令和3年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

<参考>

(1) 地域赤十字奉仕団活動状況

区分	主な奉仕活動の内容	活動回数(回)	活動延人員(人)
災害救護に関する奉仕	被災者の救護及び避難等のための独自の活動	10	53
	関係機関の救護活動への協力	5	24
	災害時の炊き出し	12	189
	被災地の防疫及び復旧作業	1	3
	義援金品の募集と受付事務	120	1,394
	救援物資の整理・輸送・配分	10	81
	一品供出等による救護物資の備蓄	34	2,833
	防災訓練(炊き出し等)	119	1,900
	救急法・幼児安全法・防災啓発プログラム	74	1,462
	プール等における臨時救護	1	4
保健衛生に関する奉仕	その他	65	421
	小計	451	8,364
	献血運動への協力	30	122
	不潔場所の浄化と消毒	155	1,053
	公共施設の清掃	662	6,255
	衛生思想の普及	21	1,068
	保健所等の関係機関による行事への協力	2	2
	巡回診療等の手伝い	13	51
	健康生活支援講習の普及	16	340
	その他	26	354
社会福祉に関する奉仕	小計	925	9,245
	にこにこ健康教室	0	0
	各種施設への労力奉仕等	87	924
	点訳及び視覚障碍者への読書奉仕	50	74
	子供会臨時保育所等による地域の一般児童保護	0	0
	敬老会等での老人福祉	96	1,434
	要保護世帯への援助	109	177
	関係機関による各種行事への協力	101	1,201
	配食サービス	23	565
	その他	147	1,312
赤十字思想普及奉仕	小計	613	5,687
	赤十字思想の普及(広報活動を含む)	83	1,170
	支援者募集及び活動資金収納	871	6,671
	日赤支部地区分区の事務奉仕	353	297
	日赤主催行事への援助	41	372
	地方自治体や関係団体等による行事への協力	256	1,014
	奉仕団運営のために必要な事務奉仕	574	3,937
	その他	107	1,432
	小計	2,285	14,893
	合計	4,274	38,189
前年度		4,464	47,636

令和3年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

(2) 各奉仕団の事業実施状況

ア 地域赤十字奉仕団

内 容	実施日	場所等
赤十字奉仕団長野県支部委員会常任委員会	令和3年5月13日	長野県支部
	7月21日	
	令和4年2月25日 ※	
赤十字奉仕団長野県支部委員会	令和3年4月16日	文書審議
地域赤十字奉仕団研修推進委員会	令和3年5月20日	長野県支部
	6月18日	
	8月27日 ※	
	11月5日	
	令和4年3月4日 ※	
赤十字奉仕団中央委員会	令和3年5月28日	Web形式
地域赤十字奉仕団幹部研修会	令和3年6月24日	長野県支部
	6月25日	佐久市
	7月1日	伊那市
	7月2日	諏訪市
	7月6日	大町市
	7月9日	飯田市
第3ブロック赤十字奉仕団委員長会議	令和3年10月14日	Web形式

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

イ 青年赤十字奉仕団

内 容	実施日	場所等
新型コロナウイルス感染症対策（予防啓発動画や衛生資材の作製） 防災啓発活動 献血推進活動 病院の座椅子拭き 病院の草取り、花壇の花整理 病院と学校敷地内の清掃 入院患者へのメッセージカード等の作成	通 年	県内各地

令和3年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

ウ 特殊赤十字奉仕団

(ア) 救護隊

内 容	実施日	場所等
救急法基礎講習会	令和3年 6月 13日	長野市
	10月 23日	木曽町
	11月 6日	上田市
	11月 28日	茅野市
	12月 5日	南箕輪村

(イ) 水上安全奉仕団

内 容	実施日	場所等
善光寺平学童記念水泳大会運営スタッフ	令和3年 9月 5日	長野市

(ウ) 安全奉仕団

内 容	実施日	場所等
救急法研修会	通年	松本市

(エ) 大町市救急員会

内 容	実施日	場所等
救急法基礎講習会	令和3年 4月 10日	大町市
第38回大町アルプスマラソン臨時救護	10月 17日	

(オ) 松本市点訳奉仕団

内 容	実施日	場所等
文芸書・児童書等の図書点訳製本作業等	通年	松本市

(カ) 青少年赤十字賛助奉仕団

内 容	実施日	場所等
長野県青少年赤十字賛助奉仕団総会	令和3年 5月 ※1	長野市
第3ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会	令和3年 6月 ※2	静岡県
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	令和3年 7月 17日	Web 形式
青少年赤十字活動あり方検討会（第1回）	令和3年 7月 22日	長野市
青少年赤十字活動あり方検討会（第2回）	令和3年 9月 11日	書面開催
青少年赤十字活動あり方検討会（第3回）	令和3年 11月 6日	長野市
青少年赤十字指導者協議会への協力 加盟校登録式への講師派遣 賛助奉仕団報発行	通 年	県内各地

※1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

※2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため令和4年度に延期

令和3年度 事業報告 | 赤十字奉仕団

(キ) 柔道整復師会奉仕団

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため活動を自粛

(ク) 広報奉仕団

内 容	実施日	場所等
歴史資料館の案内、案内ボランティア勉強会、清掃奉仕 (長野県赤十字歴史資料館案内ボランティア班)		長野県赤十字歴史資料館
紙芝居の作成・上演・DVD化、絵本の贈呈、清掃奉仕 (飯田市赤十字奉仕団上郷分団紙芝居班)	通 年	飯田市 ほか
五稜郭であいの館の案内、清掃奉仕 (龍岡城五稜郭保存会案内ボランティア班)		佐久市 ほか

(ケ) 音訳奉仕団

内 容	実施日	場所等
録音図書作製	通年	団員自宅 ほか
音訳録音ボランティア養成講座（基礎）	令和3年4月15日 4月22日 5月6日 5月13日 5月27日 6月3日 6月17日 6月24日	
音訳録音ボランティア養成講座（フォローアップ）	令和3年7月2日 7月15日 9月16日 10月1日 10月14日 11月5日 11月18日 12月3日	松本市

4 青少年赤十字



(青少年赤十字加盟登録式における誓いの唱和)

生きる力を
育む

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標と、主体性を育むために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げ、長野県教育委員会をはじめ、教職員の理解や協力を得ながら、学校教育の中で展開しています。

小・中・高等学校合わせて204の加盟校においては、校内をはじめ、地域の人々との関わりや心のふれあいを大切にしながら、人権問題や防災・減災への取り組みなど、幅広い分野で活動しています。

令和3年度は、青少年赤十字指導者や青少年赤十字賛助奉仕団等の協力のもと、青少年赤十字を取り巻く環境や活動の現状を整理し、今後の活動方針や方策等について協議するとともに、各校の要望に合わせて人権教育や防災教育等を実施しました。



オンラインによる防災学習の発表
(千曲市立屋代中学校)



思いやりの心を育む人権学習
(飯田市立山本小学校)

(1) 加盟状況

区分		小学校	中学校	高等学校	盲・養学校	合計
加盟校数 (校)	令和3年度	66	68	68	2	204
	前 年 度	64	69	69	2	204
メンバー数 (人)	令和3年度	19,801	19,622	1,801	50	41,274
	前 年 度	19,655	20,537	1,273	50	41,515

※ 令和3年度 新規加盟校（2校）

長野市立長沼小学校、佐久市立中佐都小学校

(2) 研究推進校の設置

長野県教育委員会と協議し、青少年赤十字加盟校の中から小・中学校2校を研究推進校に指定しました。

指定年度	学校名	研究内容
令和2・3年度	千曲市立屋代中学校	自己の考えを広げ深める生徒の育成 ～被災地から学ぶ～
令和3・4年度	飯田市立山本小学校	相手意識に立った 思いやりの心を育む学習のあり方

(3) リーダーシップ・トレーニングセンターの開催に向けた協議について

青少年赤十字メンバー（児童・生徒）のリーダー養成を目的として、例年8月上旬に開催する「リーダーシップ・トレーニングセンター」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、前年度に引き続き、開催を見合わせましたが、令和4年度からの再開に向けて、青少年赤十字指導者協議会長や小中高等学校教職員の参加のもと、「青少年赤十字活動あり方検討会」を実施しました。

青少年赤十字あり方検討会の開催状況

	開催日	会場等
第1回	令和3年7月22日	長野県支部
第2回	9月11日	書面開催
第3回	11月6日	長野県支部

(4) 主な事業実施状況

内 容	実施日	場所等
青少年赤十字指導者協議会総会	令和3年5月	文書通知
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	6月5日	Web形式
第3ブロック青少年赤十字指導者協議会長研究会	6月11日	Web形式
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月29日	Web形式
青少年赤十字活動あり方検討会 (第1回)	7月22日	長野県支部
青少年赤十字研究推進校発表会	9月7日 ※1	千曲市立屋代中学校 (Web形式)
青少年赤十字指導者協議会役員会	9月7日 ※2	千曲市立屋代中学校
青少年赤十字活動あり方検討会 (第2回)	9月11日 ※1	長野県支部 (書面開催)
青少年赤十字研究会(指導主事対象)	9月30日	Web形式
青少年赤十字活動あり方検討会 (第3回)	11月6日	長野県支部
青少年赤十字指導者協議会研修会	令和4年2月19日 ※2	長野県支部

※1 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催形式を変更して実施

※2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

5 救急法などの講習



今、あなたに
できることがある

(地域の防災訓練における救急法講習)

「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、応急手当、事故防止や健やかな生活を送るために役立つ知識・技術の習得と赤十字思想を普及するため、地区分区及びボランティアの協力のもと、各種の赤十字講習を開催しています。

令和3年度は、前年度に引き続き、受講者及び指導員の安全確保と感染防止対策に留意した「新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件」に基づき、受講者が安心して受講できる環境を整えながら、講習の普及に努めました。

また、日本赤十字社が目指す“地域の健康・安全な生活の追求”を推進するため、新聞広告の掲載や各メディアへの出演、新たに作製したオリジナル絆創膏セットの配布など、広く県民に対して「健康・安全」思想の普及・啓発を図りました。

救急法



事故防止や手当の基本、人工呼吸や胸骨圧迫の方法、AED（自動体外式除細動器）による除細動、止血の仕方、災害時の心得等の知識と技術を習得できます。

水上安全法



水と親しみ、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などの知識と技術を習得できます。

幼児安全法



乳幼児期に起こりやすい事故の予防とその手当、かかりやすい病気と発熱・けいれんなどの症状に対する手当などの知識と技術を習得できます。

健康生活支援講習



誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向け役立つ介護技術を習得できます。

令和3年度 事業報告 | 救急法などの講習

(1) コロナ禍における赤十字講習の対応

昨年度に策定した、「新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件」を、本社方針及び県内の感染状況や社会情勢等を踏まえ、適宜、見直しながら講習を実施しました。

令和3年7月からは、職務や学業上で受講が必須である、または、受講者同士が普段から行動を共にしている団体を対象に、感染防止対策を徹底したうえで、全ての講習において接触を伴う実技を再開しました。

【規定された用語】

【新型コロナウイルス感染症に伴う参十月講習実務要件 2021.07.20】

講習実施にかかる要事の考え方

○本次に施加する項目（以下、「規定された用語」といいます。）に限り、感染対策を十分に施じたうえで、人・人が接触する実業を最優先にする。
○規定された用語
●実業とは、事業者、生徒を主とする社会的活動をもつて行う掛組・職場や会員・生徒を中心とした団体、会員登録料金が支拂った後、会員登録料金から活動費を充てている等、支拂が実施可能と判断した掛組・団体
●日本一字学年編制

○主導者は実施掛組の代表者で、双方が合意した後は以下の通り実施する。
主導者は、主導者申請書を提出し、別紙「健康申込書チェックリスト（規定された用語）」を提出すること。

1. 廉價に関すること

- 十分な換気をできる会場を用意し、朝日など以上換気すること。
可能な限り以下の方法の順位を同時に実現すること。
- 受講者数と会場の間隔が2m程度確保できる会場を選定すること。
- 主導者は、手指消毒液を会場に設置すること。

2. 内容に関すること

人工呼吸における胸郭の呼吸の吸込みは実施しない。

3. 受講者に関すること

- 長時間のもののみとする。（原則教説は禁物とする）
人の人権尊重するため、受講者数は原則20名とする。
- 受講者数は原則20名以上とし、原則教説を除く。
ただし、実施実績20名未満は、その都度教説を教わる。
- 全ての会場は各自の教説を用い、練習会場を除く。「練習チェック表」に記入し、主導者に提出する。
主導者は受講者から提出された「練習チェック表」を確認し、参加条件を満たしていない場合は、受講者を除外する。
各会場は各自の会場内に提出用紙を用意するようにして、留意する。
「練習チェック表」は原則的に、他者と複数提出する。
- 講習中に会場がなくなった受講者が発生した場合は、主導者と指導員が協議し、中止について確認する。
- 事前に講習から全ての会場にて別紙「手洗い講習受講者の届きまお無い」の印字を済ませる。
- 受講者が主導者と連絡を取った場合に限り、主導者は受講者から提出した別紙「健康チェック表」を確認する。受講者が発生した場合は、主導者から支払に連絡する。

(別紙)

2021.07.20

派遣申請チェックリスト

主催者名		
講 習 日		
講習会場		
手 エ フ ラ ン グ スト		
講習を実施するにあたり、遵守できる項目を記してください。 全ての項目に印がつかない場合は、選択申請をご選択ください。		
□ 第四回コロナウイルス感染症に伴う参十月講習実務要件 2021.07.20 の実施に備えて実施している		
【環境に関すること】		
<input type="checkbox"/> 十分な換気ができる会場を用意し、朝日など以上換気であること。 <input type="checkbox"/> 可能な限り以下の方法の順位を同時に実現すること。 <input type="checkbox"/> 受講者数と会場の間隔が2m程度確保できる会場を選定すること。 <input type="checkbox"/> 会場に手指消毒液を設置すること。		
【内容に関すること】		
<input type="checkbox"/> 工人呼吸引けの呼吸の吸込みは実施しない <input type="checkbox"/> 人の人権尊重するため、受講者数は原則20名とする		
【受講者に関すること】		
<input type="checkbox"/> 長時間のものとする（原則教説は禁物とする） <input type="checkbox"/> 心肺蘇生法等を実施する講習は、受講者数が20名以下である場合に限り実施する <input type="checkbox"/> マスクの着用、手洗い、手消毒を徹底する <input type="checkbox"/> 別紙「練習チェック表」の提出を確保する <input type="checkbox"/> 参加条件を満たさない者は、受講させないようする <input type="checkbox"/> 別紙「手洗い講習受講者の届きまお無い」を配付する <input type="checkbox"/> 講習中、受講者同士の距離を2m程度確保する		

※指導員派遣申請書と併せて、支部に提出してください

2021.07.20

健康チェック表

回観4

登録日：令和 年 月 日	緊急連絡先
氏 名	〒
住 所	

※方が一、該該内で感染が発生した場合は、主導者等から緊急連絡先に電話連絡します。

※ご記入いただいた個人情報は、本件以外に使用しません。

状態・症状の項目	問 答 標
受講前の体温	℃
鼻汁・呉服	あり - なし
咽喉痛	あり - なし
嘔吐	あり - なし
呼吸困難	あり - なし
全身倦怠感	あり - なし
味覚障害・嗅覚障害	あり - なし
頭 痛	あり - なし
嘔 气・嘔吐	あり - なし
下 腹	あり - なし
その他 特別すべき症状	()
過去 週間以内に無理な軽い症状はありますか	あり - なし
各種疾患の有無	問 答 標
1. 2週間以内に発熱(37.5度以上)や咳などの感冒症状がある方 （及びこれらの感冒症状と発熱の内訳を具体的に記述）	あり - なし
2. 2週間以内に風邪の症状(発熱、咳、鼻水等)と並んで、頭痛や耳痛、筋肉痛、頭痛、腰痛、皮膚の発疹、眼瞼浮腫、鼻水等の発症がある方 (及びこの発症の内訳を具体的に記述)	あり - なし
3. 2週間以内に日本国外(日本を除く)へ渡航歴がある方 (渡航地名・日本渡航の期間)	あり - なし
感染防止対策の項目	問 答 標
手洗い・手の消毒はしましたか	は い - いいえ
マスクは着用していますか	は い - いいえ

【参考条件】

○状態・症状及び生理衛生の項目

体調不良・不快感等の项目的満たさないことを指す

○感染防止対策の項目

すべての項目が「はい」であることを

提出用紙の項目が「はい」であることを

提出用紙の項目が「はい」であることを

新型コロナウイルス感染症に伴う赤十字講習実施要件

(2) 各種講習会の開催状況

講習区分		資格者の養成			短期講習		計	
		実施 (回)	受講者数 (人)	養成者数 (人)	実施 (回)	受講者数 (人)	実施 (回)	受講者数 (人)
救急法	基礎講習	56	1,140	1,137	282	5,787	353	7,274
	救急員養成	※15	347	236				
水上安全法	I	0	0	0	0	0	0	0
	II	0	0	0				
健康生活支援講習		4	57	57	16	470	20	527
うち 災害時高齢者生活支援		—	—	—	15	387		
幼児安全法		3	15	15	35	556	38	571
合計		78	1,559	1,445	333	6,813	411	8,372

※学科のみ実施した講習を含む

(3) 支部主催による各種講習会

講習区分	開催日	開催地	受講者数(人)
基礎講習	令和3年4月10日	大町市	16
	5月8日	上田市	※
	5月30日	松川町	
	6月13日	長野市	13
	9月18日	佐久市	※
	10月16日	松本市	18
	10月23日	木曽町	10
	11月6日	上田市	19
	11月27日	塩尻市	14
	11月28日	茅野市	20
	12月5日	南箕輪町	11
	令和4年2月11日	長野市	
救急法	令和3年4月17日、18日	大町市	※
	5月15日、16日	上田市	
	6月5日、6日	松川町	
	6月19日、20日	長野市	
	9月25日、26日	佐久市	
	10月23日、30日	松本市	
	10月24日、30日	木曽町	
	11月13日、14日	上田市	
	11月28日、12月5日	塩尻市	
	12月4日、5日	茅野市	
	12月11日、12日	南箕輪町	
	令和4年2月12日、13日	長野市	

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

令和3年度 事業報告 | 救急法などの講習

講習区分		開催日	開催地	受講者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習	令和3年7月31日、8月1日	安曇野市	※
		8月28日、29日	飯山市	
		9月20日、21日	諏訪市	
	短期講習	令和3年6月24日	諏訪市	
		7月7日	安曇野市	
		7月10日	松川町	
		8月27日	飯山市	
幼児安全法	支援員養成講習	令和3年6月19日、20日	安曇野市	3
		8月9日、10日	諏訪市	
		11月13日、14日	飯山市	
		令和4年1月29日、30日	長野市	
	短期講習	令和3年5月13日	安曇野市	1
		6月9日	諏訪市	
		6月12日	飯山市	
		8月10日	長野市	
		9月4日	松川町	

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止



支部主催救急法基礎講習会（長野会場）

(4) 若年層（児童・生徒）を対象とした救急法短期講習の推進

救急法の受講を通じて、他者への思いやりやいのちの大切さを学ぶことができる「児童・生徒のための BLS 短時間プログラム」を、長野県教育委員会の協力のもと、県内の小・中・高等学校において実施しました。

また、より多くの学校で実施できるよう、令和2年度に引き続き、長野県赤十字有功会の支援により、本プログラムで使用する心肺蘇生訓練人形（ミニアン）70体を追加整備し、受講者同士が十分な距離を確保して実技を行うなど、接触による感染に留意しながら実施しました。



「意識（反応）の確認」の実技

(5) 幼児安全法指導員の養成

受講者 12名を対象に説明会・事前説明会は実施しましたが、県内における新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大したため、養成講習会及び新任指導員研修会については、令和4年度に延期しました。

内 容	実 施 日
説明会・事前研修会	令和3年12月23日
養 成 講 習 会	令和4年1月12日、13日、18日、19日、20日 ※
新任指導員研修会	令和4年2月22日 ※

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため延期

(6) 各種講習指導員研修

講習指導員の資質向上と JRC 蘇生ガイドライン 2020 に基づいて改訂された教本及び指導要領について理解を深めることを目的に、県内 7会場で指導員研修の開催を予定しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、指導員へ関係資料を送付し、各自による内容確認としました。

(7) 救急法指導員資格継続適性審査

指導員資格の取得時又は直近の指導員資格継続適性審査の受審時から資格継続が3回目となる救急法指導員（赤十字職員のみ）を対象に実施しました。

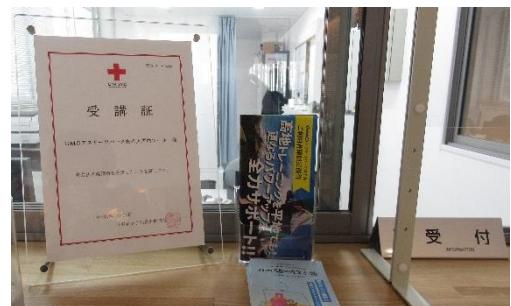
実 施 日	場 所	合 格 者 数 (人)
令和3年11月25日	諏訪赤十字病院	13
令和3年11月29日	日本赤十字社長野県支部	17

(8) 第26回長野県赤十字救急法大会

赤十字救急法の普及と講習で学んだ知識・技術の再確認を目的に、第26回長野県赤十字救急法大会を開催する予定でしたが、県内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況及び全社的に一般の方に対して人と人が接触する実技が実施できない状況であることを踏まえ、やむなく中止としました。

(9) 企業・団体用の受講証の交付

従業員や職員が赤十字救急法講習を受講していることを広く対外的に示すことにより、その企業や団体の社会的信頼の向上に寄与するとともに、企業等において赤十字講習の受講のきっかけとなるよう、企業・団体用の受講証を交付しました。



企業の受付窓口に掲示された受講証

(10) 「健康・安全」思想の普及

広く県民に対して赤十字講習及び赤十字思想の普及・啓発を図るため、新聞広告の掲載や各メディアへの出演、また新たに作製したオリジナル絆創膏セットを活用したイベント広報などを行い、赤十字講習をPRしました。



テレビ番組への出演



講習関連の動画に繋がるQRコードを印刷した絆創膏セット

(11) 講習資材の整備

次の講習資材を整備しました。

品目	数量
心肺蘇生訓練人形（ミニアン）	70
AEDトレーナー2	17



心肺蘇生訓練人形（ミニアン）



AEDトレーナー2

6 日赤活動資金の募集



救うを
託されている



(日赤活動資金の募集に協力する赤十字奉仕団員)

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ための赤十字活動は、県民の皆さんからご支援いただき活動資金が財源であり、地区分区をはじめ自治会や奉仕団のご理解とご協力を得て、募集しています。活動資金の募集には、県民の皆さまの赤十字への理解が重要であるため、内容を充実させた分かり易い広報紙を作成して全戸に配布するとともに、戸別訪問を基本としつつ、利便性やニーズに応じた口座振替やクレジットカード決済の利用、さらには遺贈・相続財産の寄付などさまざまな方法を取り入れています。

また、法人・団体の皆さんには、ダイレクトメールを利用した活動資金への協力依頼や「赤十字支援マーク」の活用を呼びかけるとともに、長野マラソン大会組織委員会とのパートナーシップ協定の締結など、各種の連携強化にも努めています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な減少が懸念されるなか、継続的な支援者の確保及び赤十字活動への理解の促進と協力への感謝を目的に、「活動資金御礼・報告チラシ」を新たに作成し、地区分区を通じて、協力いただいた皆さんへ配付しました。また、支部においては、初めて遺贈・相続財産寄付に係るWEB広告を実施するなど、活動資金の確保に努めたことにより、支援者(会員・協力会員等)は総数267,629人、活動資金は総額521,590,845円となりました。

(1) 支援者(会員・協力会員等)の状況

種 別	令和3年度末	令和2年度末	増・減
個 人(人)	262,309	263,368	-1,059
法 人(社・団体)	5,320	4,688	632
合 計	267,629	268,056	-427

(2) 日赤活動資金の募集実績

区分	目標額 (千円)	実績額 (円)	達成率 (%)	実績額内訳 (円)			前年度実績額 (円)
				市町村受付	口座振替	クレジットカード	
長野市	56,683	48,252,325	85.1	46,574,325	1,225,000	453,000	49,526,708
松本市	38,457	25,763,969	67.0	24,658,969	448,000	657,000	25,993,247
上田市	22,801	13,025,509	57.1	12,741,509	116,000	168,000	13,608,745
岡谷市	7,094	6,111,974	86.2	6,029,974	17,000	65,000	6,290,424
飯田市	14,450	16,057,855	111.1	15,887,655	94,000	76,200	14,955,455
諏訪市	7,681	7,760,182	101.0	7,386,182	201,000	173,000	7,980,446
須坂市	6,761	5,855,455	86.6	5,639,455	54,000	162,000	5,892,437
小諸市	5,703	5,862,100	102.8	5,608,100	252,000	2,000	6,114,500
伊那市	9,970	8,348,474	83.7	8,184,474	85,000	79,000	8,436,209
駒ヶ根市	4,803	3,830,008	79.7	3,817,008	3,000	10,000	3,608,760
中野市	5,621	5,866,835	104.4	5,759,835	60,000	47,000	5,773,806
大町市	3,854	3,669,050	95.2	3,545,050	108,000	16,000	4,008,050
飯山市	2,487	1,999,362	80.4	1,997,362	-	2,000	2,189,908
茅野市	8,301	5,255,146	63.3	5,148,146	99,000	8,000	5,379,205
塩尻市	9,824	7,712,347	78.5	6,737,347	904,000	71,000	7,732,092
佐久市	14,164	11,650,883	82.3	11,202,883	378,000	70,000	11,804,477
千曲市	7,967	11,753,087	147.5	11,580,087	106,000	67,000	11,791,329
東御市	3,892	4,108,067	105.6	3,982,067	36,000	90,000	4,241,900
安曇野市	13,431	13,423,950	99.9	13,013,950	123,000	287,000	13,651,596
小海町	611	1,466,200	240.0	1,406,200	-	60,000	1,492,500
佐久穂町	1,320	1,551,900	117.6	1,551,900	-	-	1,544,250
川上村	448	554,800	123.8	534,800	-	20,000	580,600
南牧村	370	365,000	98.6	355,000	-	10,000	336,000
南相木村	139	379,500	273.0	379,500	-	-	366,500
北相木村	103	160,457	155.8	160,457	-	-	174,451
軽井沢町	3,514	8,678,590	247.0	3,570,590	24,000	5,084,000	3,627,110
御代田町	2,552	2,703,750	105.9	2,667,750	36,000	-	2,773,700
立科町	911	1,323,000	145.2	1,323,000	-	-	1,331,000
長和町	762	1,306,700	171.5	1,265,700	5,000	36,000	1,301,200
青木村	515	723,916	140.6	673,916	-	50,000	689,847
下諏訪町	2,726	3,008,641	110.4	3,003,641	5,000	-	3,066,369
富士見町	1,935	2,012,980	104.0	1,947,980	65,000	-	1,993,542

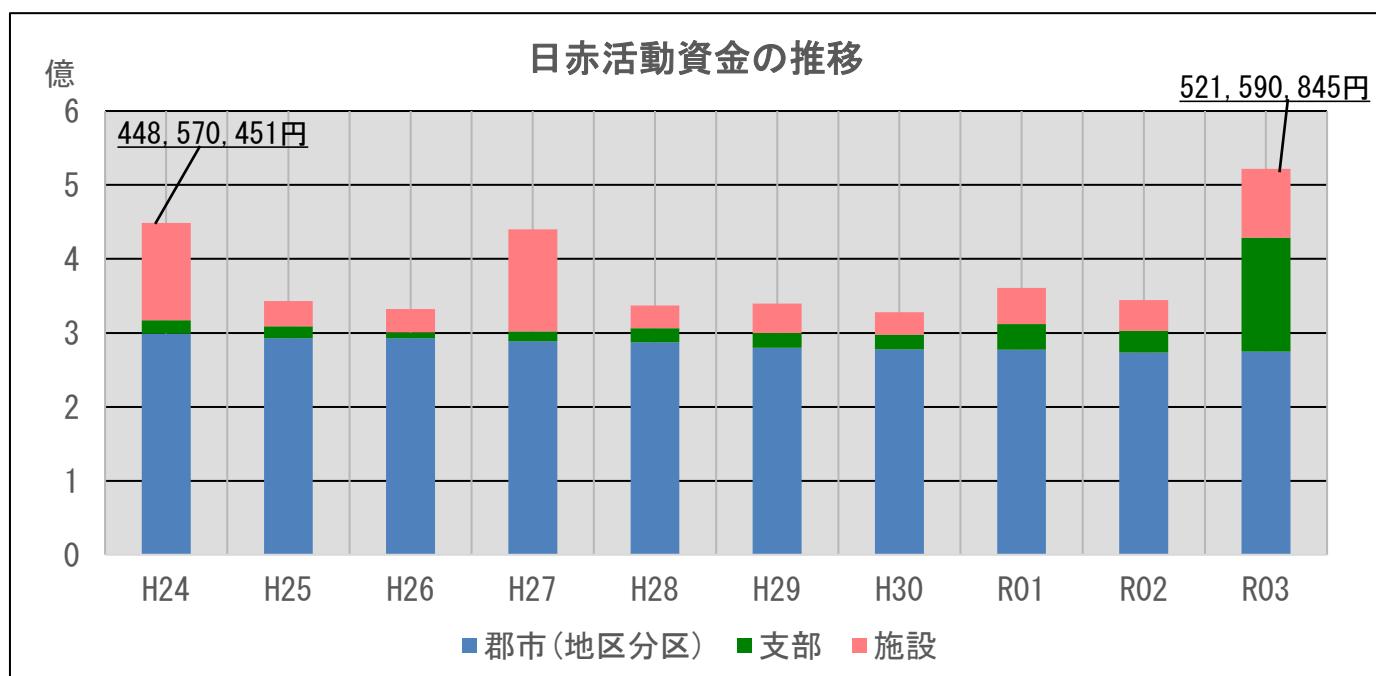
令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

区分	目標額 (千円)	実績額 (円)	達成率 (%)	実績額内訳 (円)			前年度実績額 (円)
				市町村受付	口座振替	クレジットカード	
原村	1,063	900,495	84.7	840,495	-	60,000	971,394
辰野町	2,699	2,713,871	100.6	2,688,871	-	25,000	2,866,041
箕輪町	3,604	3,463,900	96.1	3,411,900	50,000	2,000	3,563,800
飯島町	1,230	2,414,600	196.3	2,298,600	-	116,000	2,310,800
南箕輪村	2,387	1,727,200	72.4	1,677,200	2,000	48,000	1,802,200
中川村	588	709,500	120.7	709,500	-	-	708,000
宮田村	1,219	1,536,800	126.1	1,524,800	-	12,000	1,614,100
松川町	1,565	1,609,500	102.8	1,578,500	5,000	26,000	1,629,500
高森町	1,562	1,092,011	69.9	1,092,011	-	-	1,136,602
阿南町	482	580,200	120.4	580,200	-	-	612,300
阿智村	717	778,500	108.6	771,500	-	7,000	837,054
平谷村	62	54,000	87.1	54,000	-	-	71,500
根羽村	124	161,022	129.9	161,022	-	-	160,000
下條村	402	640,800	159.4	640,800	-	-	633,400
壳木村	78	156,500	200.6	156,500	-	-	158,200
天龍村	172	356,000	207.0	356,000	-	-	371,000
泰阜村	202	271,500	134.4	271,500	-	-	263,500
喬木村	686	792,000	115.5	792,000	-	-	806,500
豊丘村	759	558,164	73.5	558,164	-	-	549,128
大鹿村	144	209,700	145.6	209,700	-	-	212,700
上松町	615	1,313,629	213.6	1,313,629	-	-	1,433,415
南木曽町	530	769,500	145.2	769,500	-	-	780,000
木曽町	1,640	2,054,653	125.3	1,894,653	140,000	20,000	1,957,071
木祖村	348	388,900	111.8	388,900	-	-	389,230
王滝村	118	283,060	239.9	283,060	-	-	293,400
大桑村	510	618,957	121.4	618,957	-	-	617,360
麻績村	322	331,450	102.9	331,450	-	-	338,650
生坂村	210	341,059	162.4	341,059	-	-	342,020
山形村	1,079	1,334,412	123.7	1,329,412	-	5,000	1,265,400
朝日村	521	583,350	112.0	579,350	4,000	-	601,500
筑北村	551	784,060	142.3	784,060	-	-	803,301
池田町	1,253	1,569,980	125.3	1,345,980	24,000	200,000	1,363,980
松川村	1,245	1,259,850	101.2	1,235,850	-	24,000	1,291,100

令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

区分	目標額 (千円)	実績額 (円)	達成率 (%)	実績額内訳 (円)			前年度実績額 (円)
				市町村受付	口座振替	クレジットカード	
白馬村	1,243	1,019,400	82.0	1,017,400	2,000	-	1,449,740
小谷村	369	639,000	173.2	639,000	-	-	640,900
坂城町	2,439	2,961,225	121.4	2,867,225	60,000	34,000	3,066,361
小布施町	1,308	719,388	55.0	619,388	90,000	10,000	681,077
高山村	835	752,500	90.1	752,500	-	-	762,500
山ノ内町	1,462	1,618,702	110.7	1,582,702	36,000	-	1,653,352
木島平村	524	430,942	82.2	430,942	-	-	453,649
野沢温泉村	401	391,909	97.7	391,909	-	-	442,835
栄村	215	301,000	140.0	301,000	-	-	281,500
信濃町	1,029	1,101,400	107.0	1,101,400	-	-	1,124,215
飯綱町	1,320	1,630,385	123.5	1,577,385	7,000	46,000	1,594,941
小川村	318	435,570	137.0	435,570	-	-	343,410
市 計	243,944	206,306,578	84.6	199,494,378	4,309,000	2,503,200	208,979,294
町村計	56,056	68,595,978	122.4	62,145,978	555,000	5,895,000	64,525,695
市町村計	300,000	274,902,556	91.6	261,640,356	4,864,000	8,398,200	273,504,989
支部扱		153,936,657		-	-	-	29,514,206
指定事業海外救援金		40,000		-	-	-	-
小 計(①)		428,879,213		261,640,356	4,864,000	8,398,200	303,019,195

施設扱計(②)	-	92,711,632		-	-	-	41,302,000
合 計(①+②)	-	521,590,845		-	-	-	344,321,195



令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

(3) 法人・団体との連携

予想される大規模災害に備え、救護体制の一層の強化を図るとともに、救護資機材や救援物資の整備を推進するため、法人・団体の皆さんにダイレクトメールを送付し、赤十字活動資金への協力をお願いしました。

その結果、157社から12,064,854円のご協力をいただき、備蓄用の毛布や災害救護車両などを整備しました。

また、長野マラソン大会組織委員会とは、パートナーシップ協定に基づき、社会貢献活動に協力する体制を継続しているほか、覚書を締結した企業には、「赤十字支援マーク」をご活用いただいているます。



地区に整備した災害救護車両



備蓄用毛布

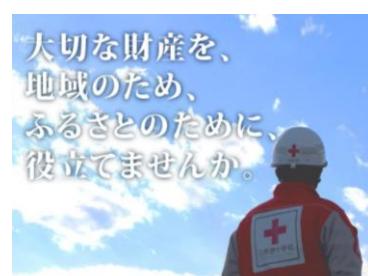
(4) 口座振替・クレジットカード決済・遺贈による活動資金の募集

戸別訪問による募集に加え、口座振替やホームページからお申込みいただけるクレジットカード決済を利用した募集のほか、金融機関や税理士協会・公認会計士協会等と協力し、遺贈や相続財産による寄付金も受け付けています。

また、期間を限定し、遺贈・相続財産寄付に係るWEB広告を掲載しました。



クレジットカード決済による申込み



遺贈・相続財産寄付に係るWEB広告

(5) 長野県支部日赤情報管理システムと全国会員情報管理システムの運用

地区分区の事務軽減と支部の事務合理化を目的に、長野県支部日赤情報管理統一システムを運用しています。システムに登録している県内の支援者の情報を一元管理することによって、活動資金の収納状況を把握することができるとともに、各種報告及び統計資料の作成、表彰候補者のリストアップが可能となっています。

また、全国会員情報システムも導入し、運用しています。

(6) 表彰

日赤活動資金や赤十字事業の進展に尽くされた方に表彰を行いました。

表彰区分			表彰基準	個人 (人)	法人 (社・団体)	合計
活動資金	紺綏褒章		500万円以上（個人）	3	0	3
			1,000万円以上（法人）			
	厚生労働大臣感謝状		100万円以上 500万円未満（個人）	12	7	19
			300万円以上 1,000万円未満（法人）			
	社資功労感謝状		金色有功章受章後 50万円以上	11	19	30
	有功章	金色	50万円以上	12	9	21
		銀色	20万円以上	24	17	41
小計				62	52	114
役職	有功章	金色	在職年数 6年以上 ほか	0	0	0
		銀色	在職年数 3年以上 ほか	2	0	2
	小計			2	0	2
協賛委員	有功章	金色	在職年数 10年以上	0	0	0
		銀色	在職年数 5年以上	0	0	0
	小計			0	0	0
奉仕団員等 奉仕者	業務功労感謝状		金色有功章受章後 活動年数 10年以上	0	0	0
	有功章	金色	活動年数 20年以上	1	0	1
		銀色	活動年数 15年以上	5	0	5
	小計			6	0	6
献血者	厚生労働大臣表彰状		活動年数 30年以上（個人） 活動年数 20年以上（団体） 成分献血、400ml 献血の推進	0	2	2
	厚生労働大臣感謝状		活動年数 20年以上（個人） 活動年数 10年以上（団体）	0	7	7
	県献血推進協議会長表彰		献血思想の普及等が顕著な 個人・団体	0	10	10
	有功章	金色	献血回数 100回以上	131	0	131
		銀色	献血回数 70回以上	188	0	188
	小計			319	19	338
合計				389	71	460

(7) 地区间事務担当者会議等の開催

支部と地区分区の円滑な意思疎通と連携を強化するとともに、支部と地区分区が一体となって日赤活動資金の確保に取り組むため地域の実情や課題を共有する地区分区担当者会議等の開催は下表のとおりとなりました。

区分	開催日	会場	参加人数
地区分区事務担当者会議 (上期)	令和3年 8月 25日 26日 27日 9月 1日 3日	塩尻市総合文化センター 南信消費生活センター 佐久穂町生涯学習館 伊那市役所会議室 長野県支部	※
地区分区事務担当課長会議	令和3年 12月 18日	長野県支部	37
地区分区事務担当者会議 (下期)	令和4年 3月 1日 3日 4日 10日 11日	塩尻市保健福祉センター 伊那市防災コミュニティセンター 南信消費生活センター 佐久市臼田総合福祉センター 長野県支部	※

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催

(8) 長野県赤十字有功会

ア 赤十字事業への協力

児童・生徒を対象に救急法講習の普及・強化に資する講習資材として「半身人形(70体)」の整備事業へ協力いただきました。



有功会から寄贈された講習教材
(心肺蘇生訓練人形（ミニアン）)



寄贈された講習教材を使って
胸骨圧迫を体験する中学生



長野県赤十字有功会

日本赤十字社に対し、多額の寄付をされた「有功章受章者」の有志により平成6年3月に設立された、赤十字事業の伸展に協力する支援団体です。

会員数：個人 122名 法人 72社（令和4年3月31日現在）

(9) 赤十字思想の普及

赤十字活動の推進には、赤十字事業への協力者と財源の確保が必要であることから、赤十字への理解を深めていただきたため、5月の赤十字運動月間に合わせ、赤十字活動の広報を強化しています。令和3年度においては5月～8月を広報強化期間とし、テレビCMの放映、テレビ番組の出演及び新聞広告の掲載等のマスコミを活用した広報活動などを展開しました。

ア 赤十字広報強化期間（5月～8月）

さまざまな広報媒体を活用し、次のとおり集中的な広報活動に取り組みました。

(ア) テレビCMの放映（「あなたの手となり、ぬくもりとなり」（本社制作））

放送実績：508回（5月1日～5月31日）

放送局：テレビ信州（TSB）、長野朝日放送（ABN）、信越放送（SBC）、長野放送（NBS）



① そのまなざしは



② あなたのまなざしだ。



③ そのぬくもりは、



④ あなたのぬくもりだ。



⑤ あなたに託されて、



⑥ 赤十字は



⑦ そこへ行く。



⑧ 救うを託されている。日本赤十字社。



⑨ コロナ対応実施中。

(イ) ラジオCMの放送（「ボランティアの想い」（当支部制作））

放送実績：365回（通年）

放送局：FM長野、SBCラジオ

(ウ) テレビ・ラジオ番組への出演

放送局	番組名	放送時間
長野放送（NBS）	暮らしのターミナル	令和3年5月5日(水) 11:20～
テレビ信州（TSB）	F r e s h	5月20日(木) 10:25～
	F r e s h	9月23日(木) 10:25～
	F r e s h	10月19日(火) 10:25～
	ゆうがたG e t !	令和4年3月18日(金) 15:50～

令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

放送局	番組名	放送時間
信越放送 (SBC)	H O T 情報	令和4年3月30日(水) 15:43~
長野朝日放送 (ABN)	今ドキ！ゆうドキッ	令和3年5月24日(月) 16:32~
FM長野	C l a p !	令和3年5月7日(金) 9:27~
	M A G I C H O U R	令和4年3月3日(木) 16:00~
	M A G I C H O U R	3月24日(木) 16:00~

(エ) 新聞広告の掲載 (信濃毎日新聞)

広告名	掲載回数
シリーズ広告	4回 (4・5・6・7月)
イメージ広告	3回 (6・7・3月)
テレビ解説中広告	11回 (5月以降、毎月1回)



イ 赤十字施設におけるイベント

県内赤十字施設では、5月8日（世界赤十字デー）や5月12日（看護の日）を中心に行なうイベントを開催し、広く一般の方々に赤十字事業への理解と協力を求めるとともに、地域住民との交流や健康に役立つ各種講座を実施しています。

施設名	イベント名	実施日	内 容
長野赤十字病院	赤十字週間	令和3年 5月 6 日 ～14 日	赤十字活動PRのための展示、院長・看護部長・事務部長による赤十字活動の紹介、ライトアップ

令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

施設名	イベント名	実施日	内 容
長野赤十字病院	がんと向きあう週間	令和3年 10月25日 ～29日	ライトアップ、院長による院内放送、がん相談支援センター活動報告
	一日看護師体験	8月5日	リモートイベント
	クリスマス関連	12月1日 ～24日	イルミネーション設置、小児病棟でのクリスマスカード配布
	世界緑内障週間	令和4年 3月7日 ～11日	ライトアップ
	病院祭・看文祭代替事業	番組作成（放送は令和4年度）	「人道が育んだ看護教育～長野赤十字看護学校の125年未来に託した想い～」（長野朝日放送にて放送）
諏訪赤十字病院	世界赤十字デー啓発イベント	令和3年 5月6日 ～14日	ティッシュ配布、ポスター展示
	高校生職場体験	8月3日	中南信地区、一部山梨県の高校生対象の職場体験（Zoomによるオンライン開催）
	一日看護師体験	8月6日	将来看護職を目指す学生を対象に、仕事内容や看護体験、ディスカッションを実施（Zoomによるオンライン開催）
	第15回市民公開がん講演会	8月21日	「がんの痛みは怖くない？～痛みのオーダーメイド治療の重要性～」「キャンサーギフト～25歳でがんになって～」（Zoomによるオンライン開催、ケーブルテレビにてダイジェスト版の放送）
	市民公開講演会	11月20日 21日 23日 25日	「認知症疾患医療センター～認知症になっても、安心して暮らせる社会を目指して～」（ケーブルテレビにて放送）
	世界糖尿病デー	11月14日	スライドの掲示、クロスカフェでの適正カロリーメニューの提供、ブルーライトアップ

令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

施設名	イベント名	実施日	内 容
諏訪赤十字病院	3.11 イベント 「ACTION！防災・減災」啓発イベント	令和4年 3月 11日	企画のポスター展示、プラズマディスプレイによる周知
	LCV 日赤健康チャンネル	通 年	毎月ケーブルテレビ（LCV）にて医療・健康情報の発信
安曇野赤十字病院	看護の日	令和3年 5月 8日 ～12日	院内各所にポスターの掲示、記念グッズの配布
	糖尿病啓発キャンペーン	11月 14日	世界糖尿病デーに合わせて看板のブルーライトアップ
	肝がん撲滅運動 市民公開講座	12月 14日 ～20日	一般社団法人日本肝臓学会と協力し市民向け講座を地元ケーブルテレビとWEB上で放映
	クリスマス関連	12月 1日 ～31日	病棟にクリスマスツリーを設置
	街路樹イルミネーション	令和4年 1月 6日 ～2月 28日	地域を明るくすることを目的に市民や企業と協力して街路樹を装飾
飯山赤十字病院	赤十字運動月間 キャンペーン	令和3年 5月 1日 ～31日	赤十字に関するパンフレット配布等
	世界アルツハイマーデー	9月 22日	ポスター掲示やディスプレイ、院内放送により周知
	医療安全週間	11月 19日 ～26日	医療安全週間を設け、川柳を募集
	飯山赤十字病院公開講座	令和4年 2月 2日 ～3月 12日	「急性期脳卒中と一次脳卒中センターの紹介」「脳出血・くも膜下出血の最新治療」「頭痛の最新治療」をテーマに医師による講演をケーブルテレビにて放映

令和3年度 事業報告 | 日赤活動資金の募集

施設名	イベント名	実施日	内 容
飯山赤十字病院	震災復興・防災イベント	令和4年 3月1日 ～31日	ポスター展示
	出前講座	通 年	地域の予防医学に関する各種講演
下伊那赤十字病院	赤十字月間	令和3年 5月1日 ～31日	パネル展示
	ラベンダー花摘み ポプリ作り	7月 2 日	感染対策の上、地域赤十字奉仕団によるラベンダー花摘み・ポプリ作りを実施
	「ACTION！防災・減災」啓発活動	令和4年 3月1日 ～31日	ポスター等を掲示
	出前講座	通 年	医療講演、認定看護師等による講演（開催回数を減らして実施）
川西赤十字病院	1日看護師体験 (説明会)	令和3年 7月30日 8月 3 日 8月 5 日	高校生による1日看護師体験 コロナにて病院開催を中止したため、看護部長が3高校に出向いて説明会を実施
長野県赤十字 血液センター	学生クリスマス キャンペーン	12月 4 日 5 日	学生ボランティアと街頭にて献血協力及び献血PR
	献血体験 キャンペーン	3回開催	献血ルームから遠方の地域において献血を体験していただくため実施
松本赤十字乳児院	わくポケ親子広場	3回開催	地域の親子を招き、料理・人形劇・ハンドベルの演奏会を実施

ウ 各種広報資材の配布

赤十字広報強化月間に集中的な広報を行うため、地区分区のご協力により「全戸配布チラシ」の配布や「赤十字運動用ポスター」の掲示に努めました。

また、新たに「活動資金御礼・報告チラシ」を作成し、ご協力いただいた皆さま等へ配布いたしました。

資材名	配布数(部)
全戸配布チラシ	760,000
赤十字運動用ポスター	3,200
リーフレット	22,000
活動資金御礼・報告チラシ	100,000



活動資金御礼・報告チラシ

(10) 長野県支部ホームページ

より多くの方々に赤十字をご理解いただくため、赤十字思想の普及に努めました。

なお、ホームページの主な掲載内容は次のとおりです。

- ・ 赤十字事業の紹介
- ・ 救急法等講習会の情報
- ・ 講習会指導員向け情報
- ・ 地区分区事務局向け情報
- ・ 青少年赤十字指導者向け情報
- ・ 義援金、救援金の募集情報
- ・ 赤十字イベントの紹介



長野県支部ホームページ

(11) 長野県赤十字歴史資料館

長野県赤十字歴史資料館には、県内外から多くの方々にご来館いただいています。

平成20年4月の開館以来、令和4年3月31日までの来館者は、9,742人を数えています。



長野県赤十字歴史資料館



長野県赤十字歴史資料館

「旧支部事務所」（明治32年建設）の大部分は、老朽化により平成19年に取り壊すこととなりましたが、赤十字の礎を築いた「救護看護婦」を戦地へと送り出した「正面玄関」と「支部長室」を改修・保存し、解体した建物の屋根瓦・ガラス窓等を再利用して、建設当時の姿を出来る限り復元しました。貴重な資料を展示し、先人の偉功を後世に伝えていきます。

7 医療事業



質の高い
医療の提供を

(手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用した呼吸器外科手術 諏訪赤十字病院)

赤十字病院は、医療法における公的医療機関として、救急医療や癌などの高度専門医療、生活習慣病の予防や高齢社会での在宅医療、へき地医療などを積極的に行うなど、地域に根ざした医療を提供するとともに、安全・安心な医療環境を確保するためのさまざまな取り組みを強化しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、感染症患者の受け入れを継続するとともに、行政機関等と連携したワクチン接種事業にも取り組みました。地域の医療を支えるため、医療提供体制の維持と良質な医療の安定的な提供に努めました。

(1) 患者受入数

	入院患者数（人）		外来患者数（人）		救急患者数（人）			
	延人数	1日平均	延人数	1日平均	時間内	時間外	深夜	合計
長野赤十字病院	189,444	519	334,825	1,384	2,501	9,312	2,484	14,297
諏訪赤十字病院	151,329	415	220,608	912	6,117	6,720	1,664	14,501
安曇野赤十字病院	81,231	222	99,317	410	3,752	3,539	734	8,025
飯山赤十字病院	74,877	205	88,848	367	4,456	1,512	359	6,327
下伊那赤十字病院	26,438	72	53,984	223	216	661	101	978
川西赤十字病院	24,601	67	15,718	65	65	235	11	311
合計	547,920	1,500	813,300	3,361	17,107	21,979	5,353	44,439
前年度	539,676	1,474	788,159	3,249	16,733	19,543	5,124	41,400

(2) 主な施設の整備状況

病院名	整備状況
長野赤十字病院	外来化学療法室待合室増設工事、全熱交換機設置工事、空気清浄除菌脱臭装置・エアコン設置工事、ネットワーク機器更新、栄養課業務用冷蔵庫・食器消毒保庫・調乳水製造装置等更新
諏訪赤十字病院	外来診察室増室拡張工事（内科・外科・産婦人科）
安曇野赤十字病院	Wi-Fi ネットワーク工事
飯山赤十字病院	感染症ユニット改修工事、非常放送設備更新、電話交換機更新
下伊那赤十字病院	介護医療院転換工事、非常用発電機整備
川西赤十字病院	南棟・看護宿舎トイレ改修工事、防火設備改修工事

(3) 主な医療機器等の整備状況

病院名	整備状況
長野赤十字病院	全身用 X 線 CT・治療計画用 CT 装置、診断装置手術用顕微鏡システム・ナビゲーションシステム・レーザーパルス、手術支援装置、超音波断層装置、医用テレメータ・ベッドサイドモニタ、遺伝子解析装置、新生児・小児用人工呼吸器、血液浄化装置、ボリュームアナライザVINCENT、歯科用 3D プリンタ
諏訪赤十字病院	全身用 X 線 CT 診断装置、多目的 X 線 TV 装置、回診用 X 線撮影装置、超音波診断装置、PCR 検査装置、人工呼吸器、空気清浄機、心臓運動負荷モニタリングシステム、電気メス、循環器部門動画サーバー、カセット印字・フロスト印字システム、救急車
安曇野赤十字病院	全自动錠剤分包機、コンピューター断層撮影装置、移動型 X 線撮影装置、超音波断層装置、手術用カメラシステム、自動精算機
飯山赤十字病院	超音波診断装置、個人用透析装置、調剤支援システム、自動薬剤ピッキング装置、眼科手術用顕微鏡、白内障網膜硝子体手術装置、移動型 X 線撮影装置、加温加湿器搭載型フロージェネレーター、LED 内視鏡システム、超音波内視鏡システム
下伊那赤十字病院	マルチスライス CT、診断用 X 線装置、生化学自動分析装置
川西赤十字病院	電子内視鏡システム、超音波診断装置、医用画像管理システム (PACS) サーバー、医用テレメーター、医療用ベッド 10 式、除細動器

(4) 諏訪赤十字病院 全身用 X 線 CT 診断装置の更新

現有機の経年劣化と新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制の強化のため、最新の装置に更新しました。新装置は、従来よりも撮影時間が大幅に短縮できることから被ばく量の軽減につながるとともに、検査の際に息を止めることが困難な新型コロナウイルス感染症患者の負担を軽減する機能を備えています。



整備年月日	令和3年9月28日
機 器 名	全身用 X 線 CT 診断装置
充 当 財 源	66,000 千円（補助金） 34,400 千円（寄附金） 42,600 千円（自己資金）
	合計 143,000 千円

(5) 飯山赤十字病院 白内障網膜硝子体手術装置及び眼科手術用顕微鏡の整備

高齢化率が高い地域における眼科的疾患の治療に対応するため、新たに白内障網膜硝子体手術装置を整備するとともに、眼科手術用顕微鏡を更新しました。本装置の整備によりこれまで行っていた白内障手術に加え、網膜・硝子体疾患手術が可能となることから、より質の高い安心な医療の提供が期待されています。



整備年月日	令和4年1月24日
機 器 名	白内障網膜硝子体手術装置一式
充 当 財 源	10,000 千円（補助金） 32,900 千円（自己資金）
	合計 42,900 千円

8 看護師養成



(戴帽式 諏訪赤十字看護専門学校)

全ての人に
寄り添う心を

赤十字の看護専門学校では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づき、豊かな人間性を育みながら看護に関する幅広い能力を備え、保健医療や国内外の医療救援活動など広く社会に貢献できる赤十字看護師を養成しています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、病院での臨床実習など従前の授業カリキュラムが制限される中、Web を活用したオンライン授業や新たな臨床実習支援システムを整備し、看護に必要な知識や技術の習得に努めました。

(1) 県内赤十字看護専門学校

県内には、長野（明治30年開校）と諏訪（大正12年開校）に赤十字看護専門学校があり、これまでに6,116人（長野3,440人、諏訪2,676人）の卒業生を送り出しました。

令和3年度は、諏訪赤十字看護専門学校に28人が入学しました。入学生は3年間勉学に励み、卒業後は看護師として広く活躍することが期待されています。



戴帽式（諏訪赤十字看護専門学校）



卒業式（長野赤十字看護専門学校）



看護学生による災害救護演習
(左：長野赤十字看護専門学校、右：諏訪赤十字看護専門学校)



授業風景
(左：長野赤十字看護専門学校、右：諏訪赤十字看護専門学校)

(2) 日本赤十字豊田看護大学の支部長推薦

長野県支部から推薦した5人が、中部圏で唯一の赤十字看護大学である日本赤十字豊田看護大学（愛知県豊田市）の令和4年度入学生として合格しました。

また、令和3年度に看護師養成課程を修了した卒業生は、県内の赤十字病院（長野1人、諏訪3人、安曇野1人）に就職しました。

これまでに、同校の卒業生105人が、県内赤十字病院に勤務し、活躍しています。

（日本赤十字豊田看護大学 卒業生の県内赤十字病院就職状況）

長野	諏訪	安曇野	飯山	下伊那	合計
39	38	12	13	3	105

9 血液事業



献血で助かる

命のために



(成人式での献血啓発活動の様子)

新型コロナウイルス感染症のまん延により、テレワークやオンライン授業の普及が進み、献血を取り巻く社会環境は大きく変化しています。このような状況の中、赤十字血液センターでは、病気やケガで輸血を必要とする人のため、皆さんに献血をお願いするとともに、検査・製剤化された血液を医療機関へお届けしています。

献血された血液は、血液型検査や各種感染症検査を行った後、安全性の高い輸血用血液製剤として24時間体制で医療機関に供給しています。

また、県域を越えた広域的な取り組みにより、血液製剤の安定的な供給と効率的な事業運営を図るため、関東甲信越ブロック管内の地域血液センターとして、安全な血液製剤の搬送や安定的な献血者の確保等に取り組んでいます。

(1) 血液センター別の献血者数

区分	長野センター	献血ルーム (長野)	献血ルーム (松本)	諏訪出張所	合計
目標人数	17,897	21,875	18,218	19,719	77,709
献血種別 献血者数	200mL	23	359	465	927
	400mL	16,336	7,823	7,169	48,126
	成分	0	12,770	12,555	29,159
献血者数計	16,359	20,952	20,189	20,712	78,212
達成率 (%)	91.4	95.8	110.8	105.0	100.6
前年度献血者数	17,025	21,886	19,853	20,540	79,304

(2) 献血 Web 会員サービス「ラブラッド」

安全性の高い血液製剤を迅速かつ安定的に供給するためには、あらかじめ献血いただける方に登録していただき、緊急時や不足時にご協力いただくことが必要です。

血液センターでは、日頃から多くの方々に献血に関心を持っていただけるよう、献血にご協力いただいた皆さんに「ラブラッド」への入会をご案内し、電子メールでキャンペーン等をお知らせするとともに、献血協力への継続をお願いしています。

(3) 原料血漿の確保

血漿分画製剤を含むすべての血液製剤を国内献血により確保するため、厚生労働省から示された目標量の確保に努めています。

(4) 献血体験キャンペーンの開催

献血ルームがない地域において血液事業の重要性を啓発するとともに、献血の機会を提供するため、長野県と協働で「献血体験キャンペーン」を佐久市、飯田市及び中野市において開催し、延べ7日間で528人の方にご協力いただきました。



献血体験キャンペーン（イオンモール佐久平）

(5) 長野市立東部中学校レオクラブによる献血ボードの寄贈

令和3年10月27日、長野市立東部中学校レオクラブから献血ボード103枚を寄贈いただきました。このボードは、「献血への第一歩として、今できることを」をテーマに作製されたもので、令和4年1月3日の善光寺献血での啓発活動にも活用しました。

今後も、若年層への献血啓発活動を中心に活用していきます。



寄贈された献血ボード（長野献血ルーム）



感謝状贈呈式（長野献血ルーム）

10 社会福祉事業



安心で元気な
社会を目指して

(松本赤十字乳児院 ピクニック)

超高齢社会を迎える日本では、介護や生活支援を必要とする高齢者が増えているにもかかわらず、生活を支える体制が十分ではありません。また、地域住民同士のつながりが希薄になることにより、子育てや介護に不安を感じ、地域から孤立する家庭が増えています。

赤十字は、社会的な支援を必要とする方が個人の尊厳を持って、その人らしい自立した生活を送ること、また、誰もが安心して元気に生活できる社会を目指して、社会福祉事業を行っています。

(1) 松本赤十字乳児院

平成28年の児童福祉法の改正によって、「社会的養育の充実」と「家庭養育優先」の理念が規定されたことにより、児童福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。乳児院では、社会的養護を必要とする乳幼児をお預かりし、保護者に代わり養育するとともに、乳児院が有するさまざまな養育の専門性を地域の家庭支援や里親の育成・支援などに活かしています。

令和3年度は、長野県から「里親養育包括支援事業」を受託して里親支援機関（民間ホステリング機関A型）の指定を受け、里親の募集、マッチング、委託後の支援まで一貫した里親支援を行いました。また、松本市をはじめ、塩尻市、安曇野市、大町市の要保護児童対策地域協議会に参画し、里親支援活動のエリアを広げるなど、高機能化・多機能化を進めました。

また、昨年度に引き続き、職員の手指の消毒及びマスクの着用を徹底するとともに、保護者との面会や交流の自粛をお願いするなど新型コロナウイルス感染症から子どもを守る取り組みに努めました。

令和3年度 事業報告 | 社会福祉事業

ア 制度別利用状況（入所定員 18名）

制度	実人数	延日数
入 所	11	4,284
一 時 保 護	27	614
ショートステイ	54	205
計	92	5,103



わくポケ親子広場 クリスマス会

イ 入所乳幼児の年間入所理由内訳

(人)

虐待	家族疾病	家庭環境	未婚	児疾病	家出	その他	計
3	6	2	0	0	0	0	11

※その他：特別養子縁組ほか

ウ 育児相談実施状況（テレフォン育児相談 「赤ちゃん 110 番」）

(回)

しつけ	発育・発達	身体症状等	栄養	その他	計
28	34	11	8	12	93

※その他：保護者の相談ほか

エ 事業実施状況

事業内容	開催回数	参加人数
マタニティ教室	7	13
わくポケ親子広場	3	26
里親交流会	3	19
養育支援訪問	90	90



里親交流会

(2) にこにこ赤十字健康教室

平成7年度に、故プレゾ・コンスタンチン氏の遺贈金をもとに創設された社会福祉事業基金を活用して「にこにこ赤十字健康教室」事業を立ち上げ、以来、高齢者を対象に、健康に関するさまざまなプログラムや紙芝居の上演などを盛り込んだ健康教室を県内各地で開催しています。

令和3年度は、新型コロナウィルス感染症の流行に伴い、参加者の健康と安全及び感染拡大防止を第一に考え、開催を見送りました。

11 評議員会



より信頼される
赤十字へ



(例年開催している評議員会)

評議員会において、次のとおり事業報告、決算、事業計画及び予算など、支部の重要な業務について審議が行われました。

(1) 令和3年6月22日（文書審議）

- 第1号議案 令和2年度事業報告について
 - 第2号議案 令和2年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算について
 - 第3号議案 日本赤十字社長野県支部副支部長及び監査委員の選出について
 - 第4号議案 日本赤十字社代議員の選出について
- 審議の結果、原案のとおり承認されました。

(2) 令和3年7月21日（文書審議）

- 議案 日本赤十字社長野県支部副支部長の選出について
- 審議の結果、原案のとおり承認されました。

(3) 令和4年2月17日（文書審議）

- 第1号議案 令和4年度事業計画について
 - 第2号議案 令和4年度一般会計及び特別会計歳入歳出予算について
 - 第3号議案 日本赤十字社代議員の選出について
- 審議の結果、原案のとおり承認されました。

(4) 令和4年3月14日（文書審議）

- 第1号議案 日本赤十字社長野県支部副支部長の選出について
 - 第2号議案 日本赤十字社長野県支部監査委員の選出について
- 審議の結果、原案のとおり承認されました。



12 監査報告

支部及び県内赤十字施設の令和3年度事業にかかる監査委員監査を、次のとおり実施しました。

監査委員	三木 正夫	貴舟 豊	小澤 輝彦
------	-------	------	-------

施設名	監査実施年月日
長野赤十字病院	令和4年5月23日
諏訪赤十字病院	5月27日
安曇野赤十字病院	5月30日
飯山赤十字病院	5月23日
下伊那赤十字病院	5月27日
川西赤十字病院	5月24日
松本赤十字乳児院	5月30日
長野県赤十字血液センター	6月2日
日本赤十字社長野県支部	6月2日

令和元年度決算から三様監査体制を導入し、会計については本社が契約する監査法人による監査が実施されました。

令和3年度 一般会計歳入歳出決算報告書
(長野県支部)

13 決算

令和3年度一般会計歳入歳出決算報告書

歳 入

(単位:円)

科 目	予算現額	令和3年度決算額	前年度決算額	令和3年度決算額の内訳	
2 支部収入	624,889,000	613,483,098	527,229,646		
1 活動資金収入	546,831,000	521,590,845	344,321,195	一般活動資金 471,699,289	【個人】 471,699,289 (地区分区 255,241,233 支部 148,980,576 施設 67,477,480)
				法人活動資金 49,891,556	【法人】 49,891,556 (地区分区 6,399,123 支部 18,258,281 施設 25,234,152)
					【合計】 521,590,845 (地区分区 261,640,356 支部 167,238,857 施設 92,711,632)
2 委託金等収入	0	15,000	7,341,756	入学試験委託金 15,000	豊田看護大学推薦入学試験委託金 15,000
3 補助金及び交付金収入	1,216,000	11,868,711	6,240,129	他団体等補助金 705,320	講習用人形(ミニアン)整備にかかる赤十字有功会補助金 705,320
				管理経費調整交付金 109,402	本社研修及び会議等にかかる旅費に対する本社交付金 109,402
				施設整備交付金 8,894,422	施設への指定寄付金以外の寄付金に対する本社交付金 8,894,422
				障害者雇用促進事業助成金 540,000	障害者雇用促進事業にかかる本社交付金 540,000
				その他本社交付金 1,619,567	人事・給与システムにかかる本社交付金 1,619,567
4 災害義援金預り金収入	51,518,000	45,601,212	57,160,137	災害義援金預り金 45,601,212	①令和3年8月大雨災害義援金 7,286,166 ②令和3年長野県茅野市土石流災害義援金 38,315,046
5 繰入金収入	5,567,000	11,558,419	67,535,635	国際救護活動資金繰入金 40,000	2021年ハイチ地震に対する個人住民税控除適用救援金の繰入金 40,000
				特別退職金積立留保金繰入金 5,526,740	特別退職金支給制度廃止にかかる資金の繰入金 5,526,740
				事業準備積立金繰入金 5,915,639	令和元年度台風第19号災害義援金(前年度受付分)送金にかかる繰入金 5,915,639
				本社繰入金 76,040	海外たすけあい人件費にかかる本社繰入金 76,040
9 資産収入	5,472,000	6,027,000	6,229,164	地代収入 6,027,000	駐車場等貸付収入 6,027,000
10 雑収入	4,699,000	5,277,654	1,553,717	講習会等負担金 4,034,014	①救急法等講習教材販売 2,913,514 ②講習経費負担金 1,120,500
				雑収入 1,243,640	①日赤情報管理システム業務委託費 298,320 ②自動販売機設置料 34,284 ③絵本等販売代 15,000 ⑤過年度交付金返納等 896,036
					前年度繰越金 11,544,257
11 前年度繰越金	9,586,000	11,544,257	36,847,913		

歳出

(単位:円)

科目	予算現額	令和3年度決算額	前年度決算額	令和3年度決算額の内訳	
2 支部費	624,889,000	612,196,166	515,685,389		
1 災害救護事業費	74,295,000	73,114,696	143,391,487	災害救護指導事業 15,903,032	①災害救護訓練及び研修会等の開催 187,653 ②災害見舞金 170,000 ③災害救護活動にかかる人件費 15,545,379
				災害救護装備 5,535,407	①地区配備救護車両及び救護員用資器材の整備 2,803,400 ②救護装備、支部救護車両の修繕及び維持管理 2,732,007
				非常災害救援物資整備 2,236,300	①非常災害救援物資（毛布）の整備 2,236,300
				災害義援金送付金 42,033,442	①令和元年度台風19号災害義援金 5,915,639 ②令和3年8月大雨災害義援金 6,190,848 ③令和3年長野県茅野市土石流災害義援金 29,926,955
				救護看護師指導養成 7,406,515	①看護師養成事業 7,406,515
2 社会活動費	67,888,000	63,090,683	56,766,856	救急法等普及 16,718,901	①救急法等講習会の開催等 3,824,882 ②講習教材購入及び資材作成等 5,625,487 ③救急法等講習普及事業にかかる人件費 7,268,532
				奉仕団活動 23,218,210	①奉仕団活動に対する助成金 15,308,689 ②奉仕団関係研修会の開催等 1,547,665 ③奉仕団活動にかかる人件費 6,361,856
				青少年赤十字活動 5,410,202	①青少年赤十字活動助成金 753,737 ②青少年赤十字関係研修会の開催等 807,339 ③青少年赤十字活動にかかる人件費 3,849,126
				社会福祉活動 20,000	①社会福祉活動にかかる活動費等 20,000
				医療事業 10,732,872	①医療施設に対する業務指導 171,847 ②医療事業にかかる人件費 10,561,025
				血液事業 6,990,498	①血液事業にかかる人件費 6,990,498
3 国際活動費	2,494,000	2,484,000	2,400,000	国際救援活動 2,484,000	①アジア・大洋州 給水・衛生災害対応キット整備事業（第3ブロック合同事業）720,000 ②レバノンシリア難民等水衛生管理支援事業（第3ブロック合同事業）960,000 ③東アフリカ3か国地域保健強化事業（第3ブロック合同事業）720,000 ④2021年ハイチ地震救援金（個人住民税控除対象救援金）40,000 ⑤海外救援金受領証作成費 44,000
4 指定事業地方振興費	13,040,000	11,550,000	7,600,000	災害救護設備整備 5,530,000	①災害救護設備にかかる整備費及び施設に対する交付金（個人住民税控除対象寄付金） 5,530,000
				救急医療体制整備 5,980,000	①救急医療体制整備にかかる施設に対する交付金（個人住民税控除対象寄付金） 5,980,000
				支部国際活動基金積立金 40,000	①2021年ハイチ地震救援金（個人住民税控除対象救援金） 40,000
5 地区分区交付金支出	48,500,000	48,098,028	49,146,607	地区分区事務費交付金 22,126,622	①地区分区への事務費交付金 22,126,622
				地区分区事業費交付金 25,971,406	①地区分区への事業費交付金 25,971,406

歳出

(単位:円)

科目	予算現額	令和3年度決算額	前年度決算額	令和3年度決算額の内訳	
6 社業振興費	36,566,000	35,684,681	41,765,900	社業振興 13,882,792	①活動資金関係会議等の開催及び管理システム運用費 3,622,984 ②活動資金募集用資材整備等 3,542,169 ③社業振興活動にかかる人件費 6,717,639
				広報活動 21,801,889	①全戸配布チラシ等広報資材整備費等 6,770,888 ②CM等広報活動にかかる費用 9,423,378 ③広報活動にかかる人件費 5,607,623
7 基盤整備交付金・補助金支出	80,231,000	80,230,810	35,706,000	医療施設基盤整備交付金 78,180,810	①医療施設に対する交付金 78,180,810 (医療施設への寄付金[個人住民税控除対象寄付金を除く])
				社会福祉施設基盤整備交付金 2,050,000	①乳児院に対する交付金 2,050,000 (社会福祉施設への寄付金[個人住民税控除対象寄付金を除く])
10 積立金支出	179,849,000	178,979,263	91,044,443	災害等資金積立金 154,999,740	①災害等資金への積立金 154,999,740
				施設整備準備資金積立金 8,000,000	①支部施設整備準備資金への積立 8,000,000
				事業準備積立金 9,483,409	①令和3年8月大雨災害災害義援金（翌年度送金分）の一時積立 1,095,318 ②令和3年長野県茅野市土石流災害義援金（翌年度送金分）の一時積立 8,388,091
				退職給与資金特別会計積立金 6,496,114	①退職給与資金特別会計への積立 6,496,114
12 総務管理費	38,757,000	38,136,307	36,750,016	評議員会等 33,518	①評議員会等にかかる費用 33,518
				総務管理 37,642,789	①社会保険料及び企業年金基金掛金 14,394,456 ②旅費、事務用品、水道光熱費、通信運搬費、印刷費等経費 7,534,500 ③職員研修、健康管理、福利厚生等 1,265,780 ④固定資産税、自動車税等 1,989,623 ⑤管理業務にかかる人件費 12,458,430
				監査費 460,000	①外部監査費 460,000
13 資産取得及び資産管理費	6,926,000	6,136,572	2,300,901	修繕費 544,159	①各所修繕費（歴史資料館玄関手すりの設置等） 544,159
				各種保険料 439,041	①損害保険料（自動車任意保険料、損害填補資金） 439,041
				管理諸費 5,153,372	①支部庁舎の警備及び維持等にかかる費用 5,148,572 ②支部車両の車検にかかる印紙代 4,800
14 本社送納金支出	74,692,000	74,691,126	48,813,179	本社送納金 74,691,126	①社資実績額の15% 74,691,126 (指定事業社資収入を除く)
15 予備費	1,651,000	0	0		

歳入歳出差引残額（翌年度繰越額）	1,286,932
------------------	-----------

令和3年度 特別会計歳入歳出決算報告書
(医療施設・社会福祉施設)

令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算報告書

収益の収入及び支出

科 目	施設名	長野赤十字病院	諏訪赤十字病院	安曇野赤十字病院
医業収益		22,952,017,955	18,020,808,751	5,943,667,498
医業費用		22,597,595,322	17,489,506,949	6,208,597,655
医療事業利益（損失）		354,422,633	531,301,802	△264,930,157
医業外収益		2,124,411,280	1,453,016,049	928,768,071
医業外費用		48,452,294	60,416,223	207,621,904
医業外利益（損失）		2,075,958,986	1,392,599,826	721,146,167
医療社会事業収益		10,709,451	11,772,239	7,142,530
医療奉仕費用		93,502,484	68,512,099	114,686,951
医療社会事業利益（損失）		△82,793,033	△56,739,860	△107,544,421
付帯事業収益		189,068,679	213,913,752	73,229,542
付帯事業費用		197,660,089	279,215,569	51,626,617
付帯事業利益（損失）		△8,591,410	△65,301,817	21,602,925
特別利益		4,208,599	9,539,724	208,580
特別損失		10,599,241	18,019,053	588,789
特別利益（損失）		△6,390,642	△8,479,329	△380,209
法人税等		0	749,558	0
病院収益		25,280,415,964	19,709,050,515	6,953,016,221
病院費用		22,947,809,430	17,916,419,451	6,583,121,916
当期純利益（損失）		2,332,606,534	1,792,631,064	369,894,305
前期繰越利益（損失）		6,263,628,069	3,078,319,314	△4,458,347,194
当期末処分利益（損失）		8,596,234,603	4,870,950,378	△4,088,452,889
利益剰余金(欠損金) 累計額(令和3年度末)		8,596,234,603	4,870,950,378	△4,088,452,889

(単位：円)

飯山赤十字病院	下伊那赤十字病院	川西赤十字病院	合 計
3,790,949,119	1,368,538,666	816,564,626	52,892,546,615
4,135,086,559	1,441,749,924	984,646,683	52,857,183,092
△344,137,440	△73,211,258	△168,082,057	35,363,523
1,414,895,607	444,662,263	271,547,362	6,637,300,632
45,507,841	4,150,281	3,359,952	369,508,495
1,369,387,766	440,511,982	268,187,410	6,267,792,137
2,312,488	0	33,400,930	65,337,638
71,187,112	302,656	28,401,210	376,592,512
△68,874,624	△302,656	4,999,720	△311,254,874
92,036,378	128,249,494	85,666,145	782,163,990
97,971,530	126,338,293	62,888,392	815,700,490
△5,935,152	1,911,201	22,777,753	△33,536,500
0	10,000	179,704	14,146,607
3,703,264	5,280,031	170,270	38,360,648
△3,703,264	△5,270,031	9,434	△24,214,041
0	0	0	749,558
5,300,193,592	1,941,460,423	1,207,358,767	60,391,495,482
4,353,456,306	1,577,821,185	1,079,466,507	54,458,094,795
946,737,286	363,639,238	127,892,260	5,933,400,687
△2,684,564,547	△297,008,137	△1,147,637,210	754,390,295
△1,737,827,261	66,631,101	△1,019,744,950	6,687,790,982
△1,737,827,261	66,631,101	△1,019,744,950	6,687,790,982

令和3年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算報告書

(単位：円)

科 目	松本赤十字乳児院
事業活動収入	222,984,784
事業活動支出	236,630,751
事業活動資金収支差額	△13,645,967
施設整備等収入	0
施設整備等支出	884,690
施設整備等収支差額	△884,690
その他の活動収入	36,510,950
その他の活動支出	19,889,680
財務活動収支差額	16,621,270
当期資金収支差額合計	2,090,613
前期末支払資金残高	60,113,403
当期末支払資金残高	62,204,016